

広報委員会 2022 年 12 月 17 日

シリーズ「エスペラントの今」第 26 号

エスペラントの現状を様々な面からご紹介するシリーズの第 26 回目をお届けいたします。ご質問、取材問い合わせ等は、当協会広報委員会までお願いします。

■エスペラントの記念日いろいろ

12 月 15 日はエスペラント語創案者のザメンホフの誕生日でした。今回のテーマは、この日をはじめとした「エスペラント」の記念日についてです。代表的な記念日が 3 つあり、6 月、7 月、12 月にあります。それぞれの背景をご紹介します。

まず、**12 月 15 日(1859 年)**。エスペラント語創案者ザメンホフの誕生日。エスペラント語(当初の名称は「国際語」)を発表したときのペンネームが「エスペラント博士 (D-ro Esperanto)」でした。つまり「エスペラント博士の日」です。「ザメンホフの日」または「本の日」と呼ばれていて、世界各地で、行事が開かれています。(右写真参照)

次に、**7 月 26 日(1887 年)**。エスペラント語の教本が世に発表された日。つまり「エスペラント語の日」です。発行された教本の名前から「第一書の日」とも呼ばれます。

19 世紀末から 100 年以上、このふたつが、いわば「エスペラントの日」のようなものでした。



「ザメンホフの日」動画祭(国際エスペラント青年機構主催)のページより

21 世紀になってからは、国内外それぞれで「エスペラントの日」と称する日が提唱されました。

ひとつが、**6 月 12 日(1906 年)**。日本で初の全国団体「日本エスペラント協会 (Japana Esperantista Asocio: JEA)」の創立の日。つまり「エスペラント普及推進の日」です。100 周年にあたる 2006 年からこの日を国内で「エスペラントの日」と呼ぶようになり、だんだんと多くの人に親しまれるようになりました。ユーチューバーの紹介動画にも、よくとりあげられています。

もうひとつが、**7 月 26 日**。世界エスペラント協会(本部: オランダ)が、言語問題に関する行動のための「言語と公正を考える日」として、2014 年頃から、この日を「Esperanto-Tago」(直訳で「エスペラントの日」)と呼ぶようになりました。

以上の、4 つの経緯からなる 3 つの日付が、近年のエスペラントの代表的な記念日です。

「創案者」への敬意、「国際語・言語」への敬意、「普及推進運動に力を尽くした先人」への敬意、「《言語と公正》という理念」への敬意と、「エスペラント」に寄せるそれぞれの思いが感じられます。多様な考えは、いずれも大切にしたいものです。

本協会では、**6 月 12 日**と**7 月 26 日**を「**(日本の)エスペラントの日**」「**(世界の)エスペラントの日**」と呼び分け、この時期に、講演会の開催(下記を参照)などの広報活動や、世界エスペラント協会との協力活動を毎年のように行っています。■



第8回「エスペラントの日」記念公開講演会1

参考：左写真は 2019 年 6 月開催の第 8 回「エスペラントの日」記念公開講演会のひとコマです。トニー・ラズロさん(フリージャーナリスト)が「多言語・多文化共生の日常—我が家の場合」と題して、多言語・多文化にまたがるご自身の生活について語りました。

※当協会の YouTube チャンネル「Japana Esperanto-Instituto」で視聴可です(QR コード参照)

